

陳 述 書

2023 年 10 月 4 日

福岡高等裁判所 御中

住所 福岡県糸島市

氏名 田中 雅之

私は、田中雅之と申します。

私が原発反対運動を始めた動機は、子や孫の世代に使用済み核燃料を残してはいけないと思ったからです。使用済み核燃料は、10 万年間保管しなければなりません。今から 10 万年の子や孫の世代からうらまれ、ろくに管理できない原子力を弄んで金儲けをする現代人は軽蔑されるでしょう。

私は、福岡県糸島市に生まれました。唐津市と福岡市の間に位置します。糸島市の人口 10 万人のうち、15%が玄海原発 30 キロ圏内に属しますので避難計画があります。逆に言うと 85%の住民は 30 キロ圏外に属し、避難計画が実質的にありません。実質的にという意味は、避難計画の中には 30 キロ圏外のことも触れてありますが、その避難計画は原発事故時には臨機応変に対応すべしと記されているのみだからです。

更に 30 キロ圏外には、福岡市とその近郊の都市や北九州市がありますが、実効性のある避難計画があるのでしょうか。福島事故時の放射能の 7 割は、偏西風により太平洋に飛んでいきました。日本地図の玄海町を福島市に合わせると、偏西風により山口県から中国地方にも放射能汚染が広がるのがわかります。北部九州の要の、福岡市と北九州は、ほぼ避難区域となるでしょう。九州の経済だけでなく、日本全国の経済にも壊滅的な打撃を与えるでしょう。

次に「**原発のメリットとデメリット**」についてお話しします。

原発のデメリットは、前述した経済的影響は二次的なものであり、一次的には、人が汚染されることです。人の生死に関わることです。特に玄海原発 3 号機はモックス燃料を使用しています。モックス燃料は使用済燃料に含まれるプルトニウムを消費するために、通常のウラン発電により生成されたプルトニウムと減損ウラン（劣化ウラン）を混合して作られるものです。現在、日本中の原発で生成されたプルトニウムは約 47 トンあり、これは長崎に投下された原爆を 4,000 発分作る量にあたります。プルトニウムは原爆の材料です。大量のプルトニウムを少しでも減らしているという姿勢を国際社会にアピールするために、モックス燃料を作って使用しています。

モックス燃料使用は、石油ストーブにガソリンを入れて使用することに例えられるほど危険です。

一方**メリット**ですが、原発発電コストは安いと政府が主張しています。

日本の「電源別発電コスト」

資源エネルギー庁が2021年発表したコストによれば、

電源種類	2020年試算 発電コスト (円/kWh)	2030年試算 発電コスト (円/kWh)
石炭火力	12.5	13.6~22.4
LNG火力	10.7	10.7~14.3
原子力	11.5~	11.7~
石油火力	26.7	24.9~27.6
陸上風力	19.8	9.8~17.2
洋上風力	30.0	25.9
太陽光 (業務用)	12.9	8.2~11.8
太陽光 (住宅)	17.7	8.7~14.9

2030年コストでは、原子力発電コストと再エネ発電コストはほぼ同じだと主張しているの
であろうと思います。

米国の「電源別発電コスト」

I E A (国際エネルギー機関)、米国政府、調査会社、投資会社のほぼ全てが「原発より
再エネのほうが大幅に安い」としています。米投資会社L a z a r dが公表した発電コス
トのグラフでは、太陽光発電コストは2009年から急落して2021年には、原子力発電コス
トの四分の一程度になっています。日本政府が発表した数値はダイナミックに変化してい
る技術や市場を十分に反映していません。原発の建設費や使用済み核燃料の処分費につい
ては、欧米に比べ低く見積もられています。

「再エネのほうが原発より安い」が世界のスタンダードです。

総括原価方式・地域独占により高い電気を買わされる企業は他国との競争に後れを取り
ます。市民は高い電気料と消費税により苦しんでいます。

東京電力は福島事故後も存続していますが、九州電力は福岡市等の北部九州が汚染され
た時に存続できるでしょうか。私は、無理だと思います。市民の生活を壊し、自らの会社
も存続できない。誰の得にもならない原発はすぐに廃棄するべきです。

裁判官の皆様、技術的に不完全であり、危険でコスト的にも割の合わない原子力発電を
すぐに止めてください。お願いいたします。